



学校だより 神橋

平成 30 年 10 月 31 日
横浜市立神橋小学校
11 月号



竹の節のように

校長 末松 隆一郎

暖かな日溜まりと朝晩の冷え込み、木枯らし、初霜、初雪と聞こえてくる冬の便り、夏と冬にはさまれたこの季節は、「秋麗」「秋冷」「爽秋」「秋涼」など、様々な言葉で彩られています。また、何をするにも心地よいこの季節、神橋の校庭・体育館では、毎週のように地域や保育園の運動会が催されるなど、まさに「スポーツの秋」真っ盛りです。また、先日は6年生が三ツ沢公園陸上競技場にて「横浜市小学校児童体育大会」に参加しました。この日までのがんばりと、当日の汗と感動を通して、これからの「横浜」を創っていく仲間たちとの一体感を味わうことができたのではと思います。演技や競技で、6年生が素晴らしい姿を見せてくれたこと、嬉しく誇りに思います。



運動会、前期終業式、後期始業式と、先月子ども達は多くの成長の「節目」を迎え、それぞれの学年に応じた素晴らしい姿を見せてくれました。そんな「節目(節)」についてお話ししたいと思います。

「竹」は、古くから日本を象徴する植物の一つです。「竹取物語」の一説に、「よろずの事に使いけり」とあるように、扇子や提灯、傘、その他様々な生活用品がしなやかな竹から作られました。また、松・竹・梅の三つをあわせて松竹梅と呼び、縁起物として称するなど、古より私たちの生活に根付いている植物です。また、青々と、そして凛として伸びる様子から、榊とともに、清浄な植物の一つとされています。そして、竹がすくすくと青い空に真っすぐに伸びる様子は、子ども達の成長の姿にも似て例えられています。



しかし、竹は初めからひたすらにただ真っすぐな成長の姿をみせるわけではありません。竹の子の段階から少しずつその成長の過程に「節」を作りながら伸びていきます。言い換えると「竹は節を作って、それを起点により高く、より強く成長する」植物です。「節」があることによって、強い風を受けても、雪の重みに反り返っても、折れることなく、よりしなやかに竹は伸び続けていきます。竹が強くしなやかに伸び続ける生命力の源が「節」です。「節」があるからこそ、竹は弓のように曲がりながらも、また元に戻り、大空に向かって伸びていけるのです。

一つ一つの「節」を成長の起点として、更に高く強く伸びていく姿、まさにそれは、子ども達の成長の過程においても同じであると思います。目標に向かってがんばったこと、辛抱強く取り組んだこと、達成できた喜び、失敗や敗北で辛かったこと、そのような経験の一つ一つが、子ども達の成長にとって大切な「節」になるのではないかと思います。

11 月は「学びのひろば」、12 月以降は「音楽発表会」、そして年が明ければ進級、卒業。また、各学年においても、「節」となる行事が様々予定されています。一つ一つの「節」をしっかりと作り、それを土台として、子ども達には更に強くたくましく、そしてしなやかに成長して欲しいと思います。